

TOKYO MARATHON 2019

車いすエリート選手発表資料

車いす招待選手(男子)
車いす招待選手(女子)
車いすエリート選手(男子)
車いすエリート選手(女子)

2019年1月23日(水)発表

一般財団法人東京マラソン財団



東京マラソン 2019 車いすエリート 募集要項

- 1.大会名称 東京マラソン 2019 (英文名: Tokyo Marathon 2019)
兼ドーハ 2019 世界陸上競技選手権大会日本代表選手選考競技会
兼マラソングランドチャンピオンシップシリーズ 2018 - 2019
～東京 2020 オリンピック日本代表選手選考競技会～
兼アボット・ワールドマラソンメジャーズ シリーズXII
- 2.主 催 一般財団法人東京マラソン財団
- 3.共 催 公益財団法人日本陸上競技連盟、東京都、読売新聞社、日本テレビ放送網、フジテレビジョン、産経新聞社、東京新聞
- 4.後 援 スポーツ庁、国土交通省、観光庁、特別区長会、公益財団法人日本体育協会、公益財団法人日本オリンピック委員会、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会、一般社団法人日本パラ陸上競技連盟、一般社団法人日本経済団体連合会、公益社団法人経済同友会、東京商工会議所、公益社団法人東京都医師会、公益財団法人東京防災救急協会、東京民間救急コールセンター登録事業者連絡協議会、公益社団法人東京都看護協会、公益財団法人東京観光財団、東京都町会連合会、東京都商店街振興組合連合会、東京都商店街連合会、公益財団法人東京都体育協会、東京都スポーツ推進委員協議会、報知新聞社、ラジオ日本、サンケイスポーツ、夕刊フジ、ニッポン放送、フジサンケイビジネスアイ、扶桑社、東京中日スポーツ
- 5.主 管 公益財団法人東京陸上競技協会
- 6.運営協力 公益社団法人東京都障害者スポーツ協会、特定非営利活動法人関東パラ陸上競技協会
- 7.特別協賛 東京地下鉄株式会社
- 8.日 程 2019年3月3日(日) 9:05 スタート
- 9.コ ー ス 東京マラソンコース(日本陸上競技連盟・IAAF/AIMS公認コース)
東京都庁～飯田橋～神田～日本橋～浅草雷門～両国～門前仲町～銀座～高輪～日比谷～東京駅前・行幸通り
- 10.参加資格 (1) 次の①・②・③の条件を満たす競技者
① 大会当日(2019年3月3日)現在満19歳以上の者
② 2018年度日本パラ陸上競技連盟登録競技者かつ2019年World Para Athletics 登録予定者で大会当日までに登録を完了し、World Para Athletics 国際クラスT53・T54でクラスステータスRまたはCを保持している者。
③ World Para Athletics 公認大会で、2016年2月1日以降申込期日までに男子1時間50分以内、女子2時間00分以内の公認記録を有する者
(2) 日本パラ陸上競技連盟が推薦し、大会が招待する国内・国外の競技者
- 11.対象クラス T53/T54 (World Para Athletics 国際クラスに準ずる。なお、今大会ではクラス分けは行わない。)
- 12.競技規則 World Para Athletics 競技規則(大会開催日に適用される最新のWorld Para Athletics 競技規則)及び本大会規定による。なお、World Para Athletics の規則により、ドーピング検査を実施する。また、参加する全ての選手にWorld Para Athletics 競技規則の広告に関する規程が適用される。
- 13.定 員 男女計30人(招待選手含む)
- 14.参 加 料 10,800円
- 15.参加申込 (1) 期間 2018年12月10日(月)から2019年1月8日(火)17:00 必着
(2) 方法 氏名、フリガナ、生年月日、所属名を記載し、elite2019@tokyo42195.orgへ「車いすエリート参加希望」というタイトルで電子メールにより連絡すること。追ってエントリーフォームを返信する。

16. 出場者決定 1月21日(月)以降、参加案内、ナンバーカード引換証とともに出場決定通知を送付する。
17. 表彰 「東京マラソン2019 車いすマラソン」の総合成績で男女第1位から第8位を表彰する。
18. 賞金 1位 1,000,000円、2位 500,000円、3位 300,000円、4位 100,000円、5位 80,000円、
6位 60,000円、7位 40,000円、8位 20,000円
世界記録 1,000,000円(男女1位のみ)
日本記録 500,000円(男女国内1位のみ)
大会記録 200,000円(男女1位のみ)
※ 賞金対象は、World Para Athletics 登録者で、国際クラス(T53・T54)を保持している者。
※ 金額はいずれも税込み。
19. 選手受付 3月2日(土) 13:00~16:00 京王プラザホテル
3月3日(日) 6:30~7:00 〃
※ エリート選手は、大会前のドーピング検査の対象となる場合があることから、受付は選手本人が行うこと。
20. テクニカルミーティング
3月2日(土) 17:00~ 京王プラザホテル
21. 個人情報の取り扱いについて
主催者及び日本パラ陸上競技連盟は個人情報の重要性を認識し、個人情報の保護に関する法律及び関連法令等を遵守し、主催者の個人情報保護方針に基づき、個人情報を取り扱う。大会参加者へのサービス向上を目的とし、参加案内、記録通知、関連情報の通知、医療救護、次回大会の案内、大会協賛・協力・関係各団体からのサービス提供、記録発表(ランキング等)に利用する。また、主催者および日本パラ陸上競技連盟もしくは委託先からの申込内容に関する確認連絡をすることがある。
22. その他 (1) 主催者の責によらない事由で大会を中止した場合、参加料の返金は一切行わない。
(2) 主催者による健康検査は行わない。各自の責任において最良の健康状態で参加すること。
(3) 競技者が大会参加中に被った傷害または疾病に対しては、応急処置までを行う。
(4) ドーピングコントロール
国際陸上競技連盟アンチ・ドーピング規則および規定・World Para Athletics 競技規則、もしくは日本アンチ・ドーピング規程に基づいて行われる。尚、本大会の前もしくは後のドーピング検査では、尿又は血液(或いは両方)の採取が行われる。該当者は指示に従って検査を受けること。
日本パラ陸上競技連盟に登録していない競技者も同様に従うこと。競技会時、ドーピング検査の対象となった場合、顔写真付きの身分証明書が必要となる。顔写真のついた学生証、社員証、運転免許証、顔写真が鮮明なパスポートコピーなどを持参すること。
(5) TUE申請
禁止表国際基準で定められる禁止物質・禁止方法を病気の治療目的で使わざるを得ない競技者は“治療使用特例(TUE)”の申請を行わなければならない。詳細については、日本陸上競技連盟医事委員会のホームページ(<http://www.jaaf.or.jp/medical/index.html>)、又は日本アンチ・ドーピング機構ホームページ(<http://www.playtruejapan.org/>)を確認すること。
(6) 大会出場中の映像・写真、記事、記録等のテレビ、新聞、雑誌、インターネット等への掲載権は主催者に属するものとする。
(7) 賞金の支払い方法等は、別途定める支払規定による。
(8) 本大会は国内の関連するすべての法令を遵守し実施する。

【車いすエリートレース展望】

東京マラソン車いすレースディレクター

副島 正純

車いすレースでは、新コースになった 2017 大会から日本人選手が連勝中です。また、2017 大会は 6 選手が、2018 大会は 2 選手がフィニッシュ直前までデッドヒートを繰り広げ、最後まで勝利の行方が分からない接戦が続いています。今年はいったいどんなレースになるのでしょうか。

車いすレースでは、一般に長い上り坂や下り坂などで仕掛ける選手が多いですが、東京マラソンのコースにはきっかけとなるようなポイントがあまり見当たりません。唯一といってもよいのがレース序盤の 5 km 地点手前にある下り坂です。おそらくスタートからこの坂までは集団でのレースになると思いますが、下り坂では自然に時速 50 km 以上にスピードアップするので、ここで仕掛けてトップに立ち、一気に逃げる選手が現れるかもしれません。

あるいは、互いに牽制しあい、集団が崩れないままのレース展開となることも考えられます。ただ、選手としては集団の人数はなるべく少ない方がいいので、スピードを上げ下げしてライバルを振り落とそうとする選手も出てくるはずですよ。この駆け引きも車いすレースの見どころです。誰がリードし、誰が遅れるのか。集団の大きさの変化にも注目です。

スピードの速い車いすレースは向い風の抵抗が強いので縦一直線に連なる走りも特徴ですが、先頭に長くいると疲労し、ペースダウンしやすいので、元気な選手が先頭を替わり、ペースを維持しようします。「ローテーション」と呼ばれる動きで、この動きが頻繁に見られるときは速いペースでレースが進みます。

先頭の選手が首を左右に振って他選手に交代を促したりしますが、なかには体力温存のためなど先頭に出たがらない選手もいて、集団が横に広がることもあります。レース中の各選手の様子に注目すると、それぞれのレース戦略が読めるかもしれません。

最後までもつれた場合は、フィニッシュ前の直線に入手前の左カーブでの位置取りが重要です。一漕ぎで大きく差がついてしまうので、どの選手もできれば先頭で直線に入ろうと狙ってくるはずですよ。そのためには、41 km 地点を過ぎた丸の内仲通りがポイントでしょう。石畳が続く、「長くて、きつい」という選手も多く、去年は私も選手として走って実感しましたが、石畳では車いすの振動が激しいので、うまく走ることが大切です。

今年のもう一つ、注目してほしい見どころがあります。今年度のアボット・ワールドマラソンメジャーズシリーズ XII から車いすレースに新たに加えられた、「スプリントボーナスポイント」です。設定条件をクリアした選手 1 名にボーナス点が与えられます。設定条件には、(1)コース上のある地点をトップで通過する、(2)設定区間で最速タイムをマークする、という 2 つがあり、今年の東京マラソンでは設定条件(2)を選びました。

具体的には高輪の第 2 折り返し点直後の 35.8km 地点から 37.1km までの直線 1.3km 区間をボーナスポイント区間とし、タイムを競います。駅伝でいう、「区間賞」をイメージしてもらえば分かりやすいかと思いますが、順位に関わらず、どの選手にも可能性があります。終盤の苦しいところでもあり、ここでペースアップすることで、レース全体が動くことも期待されます。ぜひ注目してください。

■群雄割拠の頂上決戦！

東京で、車いすマラソンのトップレベルのレースをお見せしたい——。そんな思いで、今年のエリート選手には、2018 年中に行われたアボット・マラソンメジャーズ 6 大会の優勝者全員を含む、男子 9 人、女子 8 人の計 17 選手を招聘しました。「世界トップ」がずらりと顔をそろえる予定です。初出場選手も多く、展開が予測しにくい分、楽しみです。

まず、男子ですが、ボストンマラソン(4 月)を制したマルセル・フグ(SUI)はトラックからマラソンまでオールマイティな絶対王者。先行逃げ切りもできれば、フィニッシュ前のスプリントも強く、昨年の大分国際(11 月)では 2018 年度世界最速タイムとなる 1 時間 23 分 56 秒をマークしています。2017 大会は 2 位、昨年は渡航アクシデントにより欠場だったので、東京初優勝を狙った積極的なレース展開に期待です。

ロンドン(4 月)の覇者、デイビッド・ウィアー(GBR)は先頭で引っ張るよりは周囲を見ながら、誰かが動けばしっかり反応できる地力があります。初出場ですし、集団の中でどんなポジションを取ってくるか楽しみです。

ベルリン(9 月)を制したブレント・ラカトス(CAN)は、実は 100m を得意とするスプリンター。また、障がいの最も軽い T54 クラスの選手が多いなか、T53 と障がいが少し重いクラスの彼がマラソンを制したことは驚きですが、車いすマラソンの面白さも示してくれました。

シカゴ(10 月)とニューヨークシティ(11 月)で 2 連勝を飾ったのはダニエル・ロマンチュク(USA)です。招待選手の中では 20 歳と最も若く、勢いがあります。序盤からレースをかき回し、他の選手を刺激するような走りに期待です。

海外からはもう一人、韓国のユ・ビョンフンを招待しました。昨年の大分国際(11 月)で 3 位に入った選手で、トラックで磨いたスピードを武器に、マラソンでも急成長しています。彼もラカトスと同じ T53 ですが、二人とも小柄で軽量なので負担は少ないはず。初出場の二人が最後まで絡み、スプリント勝負で持ち味を発揮してくれるかもしれません。

日本選手はまず、前回覇者の山本浩之(福岡)。招待選手の中では最年長のベテランで、東京のコースは得意としているので、しっかり合わせて臨んでくれるでしょう。大分国際で 2 位に入った鈴木朋樹(トヨタ自動車)は今、日本で最も勢いがあります。先頭で引くというよりは、集団の中で戦況を見ながら最後まで競ることができる選手です。逆に、大分国際 5 位の西田宗城(バカラパシフィック)は序盤から仕掛け、攻めた走りでレースを動かしてくれるはず。一昨年の覇者、渡辺勝(トッパン)もポテンシャルは十分です。海外の強豪たちと渡り合える強い選手たちが集結しています。

女子は、昨年優勝のマニエラ・シャー(SUI)が世界記録(1 時間 36 分 53 秒)を更新する快走を見せたベルリンのほか、シカゴ、ニューヨークシティでも勝ち、絶好調です。ロンドンを制したマディソン・デ・ロザリオ(AUS)は T53 の選手ですが、勢いがあり、フィニッシュ前の競り合いを制したスプリント力もあります。ボストンの覇者、タチアナ・マクファーデン(USA)は常に上位に入る実力者です。3 人がいい流れを作ってくれると思います。

日本の喜納翼(タイヤランド)は大分国際で自己新(1 時間 39 分 36 秒)をマークするなど着実に力を伸ばしています。世界トップ選手たちに最後まで食らいつき、メダル争いをしてほしいです。

このように、今年も男女とも実力者ぞろいの「贅沢なレース」になる見込みです。沿道で、テレビで、ぜひご観戦ください。2020 年の東京パラリンピックを楽しむ準備にもなるはず。ぜひ。

現在のコースは一般に、「フラットな高速コース」と評され、マラソンの部では好記録が誕生している一方、車いすマラソン出場選手からは「タフなコース」という声が聞かれます。実際、男子の優勝記録は 2017 年が 1 時間 28 分 01 秒、2018 年が 1 時間 26 分 23 秒と世界記録(1 時間 20 分 14 秒)からは少し離れています。

車いすマラソンでは、ペースメーカーがいないので選手それぞれがペースを維持し、自身の描くレース展開をつくらねばならない難しさもありますが、それが「醍醐味」でもあります。

実力的には世界新も狙える選手がそろっているので、ローテーションしながら縦長の集団で展開されるレースになれば、記録更新も十分可能でしょう。スピード感にあふれ、迫力ある車いすレースをぜひ応援し、楽しんでいただきたいと思います。

Preview of Elite Wheelchair Race

Tokyo Marathon Wheelchair Race Director Masazumi Soejima

The Japanese athletes won the wheelchair division of Tokyo Marathon for two consecutive years since 2017, the year the new course was inaugurated in the Tokyo Marathon. In 2017 six athletes fought it out till the finish line, while in 2018 two athletes exchanged surges to the end. How will the race unfold this year?

In the wheelchair race, many athletes tend to make their moves on the long-inclined slope, either uphill or downhill, but there is no particular slope that stands out in Tokyo, except the downhill incline just before the 5km point. The athletes are likely to stay in pack from the start, but considering that wheelchair can attain the speed over 50km/h on downhill, someone might make a move on this section in their attempt to pull away from the other competitors to take the lead.

On the other hand, it is possible that athletes may use wait and see approach which keeps the pack intact.

But athletes prefer smaller pack, so we may see an athlete trying to break up the pack by changing their speed constantly. Variety of tactics and approaches involved in wheelchair racing is what makes it exciting. Who will lead the race? And who will fall off from the pack? Watch how the size of the pack changes as the race progress.

Because a high speed is involved in the wheelchair racing, a wind is an important factor and the athletes are likely to race in a single file to avoid breaking the wind. Since the athletes have to spend an extra energy when leading the pack, it is beneficial for the race if athletes take turn to lead the pack to maintain a steady pace. Such tactic is often called "rotation", and when rotation takes place frequently, the race tends to be fast paced.

A leading athlete will shake their head left to right to signal other athletes to take the lead, but some will avoid taking the lead in order to conserve the energy, which sometimes will result in the pack to spread sideways. If you pay close attention to athletes individually, you may recognize each athlete's tactics.

If the race stayed close to the end, the positioning before turning left into the last home-stretch becomes important. Since a single stroke can make a great difference, any athletes will try to take the lead before entering the final stretch. Therefore, the Marunouchi-Naka-Dori Ave, just passed 41km point, will become an important section. Many athletes describe this cobblestone road as "long and tough", and from my experience from the last year, the vibration from the cobblestone road is violent and great maneuvering will become important.

There is one more point to be focused this year. Abbott World Marathon Majors series XII introduced "Sprint bonus points" system in the wheelchair division. The athlete who cleared the pre-set condition wins "bonus points." The pre-set conditions are: (1) Go through the set point in first place; (2) record the fastest time for the pre-set section. The pre-condition (2) was selected as the bonus point criterion for the Tokyo Marathon this year.

More specifically, the bonus points will be given to the athlete with the fastest time in the 1.3km segment from 35.8km point right after the second turn-around point in Takanawa to 37.1km point. Like "Kukan-sho," the fastest stage in Ekiden, anybody can shoot for the bonus point regardless of their current position. Since the pre-set section is near the end of the course where racing start to get tough, the whole race may speed up at this point. Watch for the action in this section.

■Battle for the Supremacy at Gathering of Eagles

Wishing to present the truly elite wheelchair race to the world, nine male and eight female athletes including the winners from all six Abbott World Marathon Majors events in 2018 are invited. It is truly a gathering of eagles. However, many of them will race in Tokyo for the first time and thus it may be hard to predict the outcome.

First, on the men's side, Marcel Hug (SUI) who won Boston Marathon in April will lead the field. Currently the best in the world, Hug excels in all aspects of racing. He can race away from the field from the early stage of the race, or out-sprint the competitors just before the finish line. In the Oita International Wheelchair Marathon, he recorded the 2018 season best of 1:23:56. Since Hug was second in the 2017 edition of the Tokyo Marathon, and missed the 2018 edition of the race with flight issues, we expect him to shoot for the victory by racing aggressively in Tokyo this year.

David Weir (GBR) who won the London Marathon in April, is not a front runner. Instead he waits and sees if anybody makes a move and react when the time comes. It is interesting to see his positioning within the pack, for this is his first Tokyo Marathon.

Brent Lakatos (CAN) who won the Berlin Marathon in September is actually a sprinter who excels at 100m. It is bit surprising that he competes in the T53 category, but won the race against T54 category racers, those with slightly lighter handicap. Such is a fascinating aspect of wheelchair racing.

Daniel Romanchuk (USA) won the Chicago Marathon in October and the New York City Marathon in November. He is the youngest in the field at twenty and perhaps the rising star of the future. Hope to see his aggressive racing style inspires his competitions.

Yoo Byunghoon of Korea, who finished third in the Oita International Wheelchair Marathon in November, is also invited. With the superior speed he honed in the track race, Yoo is rising fast in the marathon distance. He, like Lakatos, competes in T53 category. They are both light weights, and thus their reduced resistances might help them in the competitions. Two rookies in the Tokyo Marathon might fight it out till the end with their superior sprint ability.

Among the Japanese, last year's champion, Hiroyuki Yamamoto (Fukuoka) is the oldest among the invited athletes. He excels over the Tokyo Marathon course, so he will be ready.

Tomoki Suzuki (Toyota), who finished second in Oita International Wheelchair Marathon, may be at the height of his power. He is not a front runner but likely to sit and wait in the pack before unleashing his power near the end of the race.

On the other hand, Hiroki Nishida (Baccarat Pacific), who finished fifth in the Oita International Wheelchair Marathon, can compete aggressively from the start and make the race exciting.

Sho Watanabe (Toppan Printing), who won the Tokyo Marathon two years ago, also has great potential. The Invited Japanese athletes are expected to compete well against the invited athletes from abroad.

On the women's side, last year's champion Manuela Schar (SUI), who set the world record of 1:36:53 on the Berlin course, also won the Chicago and New York City Marathons. It shows that she is in awesome shape.

Madison de Rozario (AUS) who won the London marathon competes in T53 category. She is on the rise and also endowed with superior speed to win the final sprint to the finish line.

The Boston champion Tatyana McFadden (USA) always finishes within the top rank. I expect these three athletes to set a good pace.

Among the Japanese, Tsubasa Kina (Tireland Okinawa) set a personal best of 1:39:36 at Oita International Wheelchair Marathon, and she is steadily improving. Hope to see her stay with the world class athletes until the very end, fighting for a medal.

Both men's and women's field are expected to be great. Watch the race along the course or on air. It will be a nice preview of the 2020 Tokyo Paralympics.

The current course is generally known as "flat and fast course" which explains fast marathon times. However, wheelchair athletes assess the course as "quite tough." In fact the winning time for the men's wheelchair race was 1:28:01 in 2017 and 1:26:23 in 2018, quite a distance away from the world record of 1:20:14.

The pacemakers are not employed for the wheelchair racing and thus each racer need to maintain his/her own pace. It is a difficult part of the wheelchair racing but at the same time, it is the best part of the wheelchair racing.

The field includes those who can aim for the world record. If athletes took turn in leading the pack, the record is possible. Hope everyone can enjoy and cheer the wheelchair racers, for the race is full of speed and power.

車いす招待選手(男子)

INVITED WHEELCHAIR ATHLETES (MEN)

※年齢は大会当日(2019年3月3日)のものとなります。

※Age as of March 3, 2019

プロフィール Biographies

	No.1001	国籍 / スイス・SUI	生年月日 / Date of Birth 16 Jan. 1986 年齢 / Age 33
		名前 マルセル・フグ Name HUG, Marcel	
	資格記録 Qualified Time	Time 大会名 / Race 順位 / Place 1:23:59 / 2018 大分国際(Oita) 1	
	自己最高記録 Personal Best	1:18:04 / 2017 ボストン(Boston) 1	
備考 / Remark	2016 リオパラリンピック(Paralympic Games-Rio) Marathon 1:26:16 1st		

	No.1002	国籍 / 韓国・KOR	生年月日 / Date of Birth 30 Jun. 1972 年齢 / Age 46
		名前 ユ・ビョンフン Name YOO, Byunghoon	
	資格記録 Qualified Time	Time 大会名 / Race 順位 / Place 1:24:00 / 2018 大分国際(Oita) 3	
	自己最高記録 Personal Best	1:24:00 / 2018 大分国際(Oita) 3	
備考 / Remark	2018 ソウル国際(Seoul) 1:30:10 4th		

	No.1003	国籍 / カナダ・CAN	生年月日 / Date of Birth 1 Jul. 1980 年齢 / Age 38
		名前 ブレント・ラカトス Name LAKATOS, Brent	
	資格記録 Qualified Time	Time 大会名 / Race 順位 / Place 1:29:41 / 2018 ベルリン(Berlin) 1	
	自己最高記録 Personal Best	1:29:41 / 2018 ベルリン(Berlin) 1	
備考 / Remark	2016 リオパラリンピック(Paralympic Games-Rio) 100m 14.44 1st		

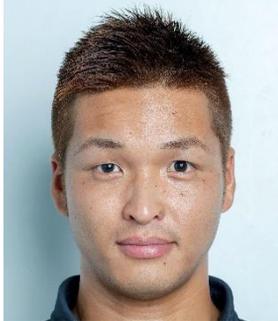
	No. 1004	国籍 / アメリカ・USA	生年月日 / Date of Birth 3 Aug. 1998 年齢 / Age 20
		名前 ダニエル・ロマンチュク Name ROMANCHUK, Daniel	
	資格記録 Qualified Time	Time 大会名 / Race 1:29:45 / 2018 ベルリン (Berlin)	順位 / Place 5
	自己最高記録 Personal Best	1:26:26 / 2017 ボストン (Boston)	16
備考 / Remark	2018 シカゴ (Chicago) 1:31:34 1st		

	No. 1005	国籍 / イギリス・GBR	生年月日 / Date of Birth 5 Jun. 1979 年齢 / Age 39
		名前 デイビッド・ウィアー Name WEIR, David	
	資格記録 Qualified Time	Time 大会名 / Race 1:29:55 / 2018 ベルリン (Berlin)	順位 / Place 12
	自己最高記録 Personal Best	1:29:55 / 2018 ベルリン (Berlin)	12
備考 / Remark	2018 ロンドン (London) 1:31:15 1st		

	No. 1006	所属 / 千葉・トヨタ自動車	生年月日 / Date of Birth 14 Jun. 1994 年齢 / Age 24
		名前 鈴木 朋樹 Name SUZUKI, Tomoki	
	資格記録 Qualified Time	Time 大会名 / Race 1:24:00 / 2018 大分国際 (Oita)	順位 / Place 2
	自己最高記録 Personal Best	1:24:00 / 2018 大分国際 (Oita)	2
備考 / Remark	2018 東京 (Tokyo) 1:26:24 2nd		

	No. 1007	所属 / 福岡	生年月日 / Date of Birth 31 May. 1966 年齢 / Age 52
		名前 山本 浩之 Name YAMAMOTO, Hiroyuki	
	資格記録 Qualified Time	Time 大会名 / Race 1:24:01 / 2018 大分国際 (Oita)	順位 / Place 4
	自己最高記録 Personal Best	1:19:32 / 2017 ボストン (Boston)	3
備考 / Remark	2018 東京 (Tokyo) 1:26:23 1st		

	No.1008	所属／大阪・バカラパシフィック	生年月日／Date of Birth 11 Mar. 1984 年齢／Age 34
		名前 西田 宗城 Name NISHIDA, Hiroki	
	資格記録 Qualified Time	Time	大会名/Race
		1:24:01／2018 大分国際(Oita)	5
自己最高記録 Personal Best		1:20:28／2017 ポストン(Boston)	5
備考／Remark	2018 ベルリン(Berlin) 1:29:47 6th		

	No.1009	所属／福岡・凸版印刷	生年月日／Date of Birth 23 Nov. 1991 年齢／Age 27
		名前 渡辺 勝 Name WATANABE, Sho	
	資格記録 Qualified Time	Time	大会名/Race
		1:26:22／2017 ソウル国際(Seoul)	2
自己最高記録 Personal Best		1:26:22／2017 ソウル国際(Seoul)	2
備考／Remark	2017 東京(Tokyo) 1:28:01 1st		

車いす招待選手(女子)

INVITED WHEELCHAIR ATHLETES (WOMEN)

※年齢は大会当日(2019年3月3日)のものとなります。

※Age as of March 3, 2019

プロフィール Biographies

	No.1101	国籍 / スイス・SUI	生年月日 / Date of Birth 5 Dec. 1984
		名前 マニュエラ・シャール Name SCHAR, Manuela	
	資格記録 Qualified Time	Time	大会名 / Race
	1:36:53 / 2018	ベルリン(Berlin)	1
自己最高記録 Personal Best	1:28:17 / 2017	ボストン(Boston)	1
備考 / Remark	2018 東京(Tokyo) 1:43:25 1st		

	No.1102	国籍 / アメリカ・USA	生年月日 / Date of Birth 21 Apr. 1989
		名前 タチアナ・マクファーデン Name MCFADDEN, Tatyana	
	資格記録 Qualified Time	Time	大会名 / Race
	1:39:15 / 2017	シカゴ(Chicago)	1
自己最高記録 Personal Best	1:35:05 / 2017	ボストン(Boston)	4
備考 / Remark	2018 東京(Tokyo) 1:44:51 2nd		

	No.1103	国籍 / アメリカ・USA	生年月日 / Date of Birth 9 Jun. 1986
		名前 アマンダ・マグロリー Name MCGRORY, Amanda	
	資格記録 Qualified Time	Time	大会名 / Race
	1:39:15 / 2017	シカゴ(Chicago)	2
自己最高記録 Personal Best	1:33:13 / 2017	ボストン(Boston)	2
備考 / Remark	2017 東京(Tokyo) 1:43:27 1st		

	No.1104	国籍 / オーストラリア・AUS	生年月日 / Date of Birth 24 Nov. 1993
		名前 マディソン・デロザリオ Name DE ROZARIO, Madison	
	資格記録 Qualified Time	Time	大会名 / Race
	1:39:22 / 2017	シカゴ(Chicago)	4
自己最高記録 Personal Best	1:39:22 / 2017	シカゴ(Chicago)	4
備考 / Remark	2018 ロンドン(London) 1:42:58 1st		

	No.1105	国籍／アメリカ・USA	生年月日／Date of Birth 16 May. 1991 年齢／Age 27	
		名前 スザンナ・スカロニ Name SCARONI, Susannah		
	資格記録 Qualified Time	Time 1:41:44／2018	大会名/Race ベルリン(Berlin)	順位/Place 2
	自己最高記録 Personal Best	Time 1:33:17／2017	大会名/Race ボストン(Boston)	順位/Place 3
備考／Remark	2016 リオパラリンピック(Paralympic Games – Rio) Marathon 1:38:47 7th			

	No.1106	国籍／オランダ・NED	生年月日／Date of Birth 30 Mar. 1974 年齢／Age 44	
		名前 マルフリート・ファンデンブルーク Name VAN DEN BROEK, Margriet		
	資格記録 Qualified Time	Time 1:44:06／2018	大会名/Race 大分国際(Oita)	順位/Place 2
	自己最高記録 Personal Best	Time 1:38:33／2017	大会名/Race ボストン(Boston)	順位/Place 8
備考／Remark	2018 ニューヨークシティ(NYC) 1:57:30 5th			

	No.1107	国籍／沖縄・タイヤランド沖縄	生年月日／Date of Birth 18 May. 1990 年齢／Age 28	
		名前 喜納 翼 Name KINA, Tsubasa		
	資格記録 Qualified Time	Time 1:39:36／2018	大会名/Race 大分国際(Oita)	順位/Place 1
	自己最高記録 Personal Best	Time 1:39:36／2018	大会名/Race 大分国際(Oita)	順位/Place 1
備考／Remark	2018 東京(Tokyo) 1:46:17 3rd			

	No.1108	所属／神奈川・アクセンチュア	生年月日／Date of Birth 22 Jun. 1983 年齢／Age 35	
		名前 中山 和美 Name NAKAYAMA, Kazumi		
	資格記録 Qualified Time	Time 1:46:14／2017	大会名/Race 東京(Tokyo)	順位/Place 6
	自己最高記録 Personal Best	Time 1:46:14／2017	大会名/Race 東京(Tokyo)	順位/Place 6
備考／Remark	2018 大分国際ハーフ(Oita) Half 52:59 1st			

車いすエリート選手(男子)リスト ELITE WHEELCHAIR ATHLETES (MEN)

No.	氏名 Name	国籍・所属 Nationality・Club	年齢 Age	出場資格記録 Qualified Time	自己記録 Personal Best Time
1001	マルセル・フグ	HUG, Marcel	SUI スイス	33 1:23:59 2018 大分国際	1:18:04
1002	ユ・ビョンフン	YOO, Byunghoon	KOR 韓国	46 1:24:00 2018 大分国際	1:24:00
1003	ブレント・ラカトス	LAKATOS, Brent	CAN カナダ	38 1:29:41 2018 ベルリン	1:29:41
1004	ダニエル・ロマンチュク	ROMANCHUK, Daniel	USA アメリカ	20 1:29:45 2018 ベルリン	1:26:26
1005	デイビッド・ウィアー	WEIR, David	GBR イギリス	39 1:29:55 2018 ベルリン	1:29:55
1006	鈴木 朋樹	SUZUKI, Tomoki	千葉 トヨタ自動車	24 1:24:00 2018 大分国際	1:24:00
1007	山本 浩之	YAMAMOTO, Hiroyuki	福岡	52 1:24:01 2018 大分国際	1:19:32
1008	西田 宗城	NISHIDA, Hiroki	大阪 パカラパシフィック	34 1:24:01 2018 大分国際	1:20:28
1009	渡辺 勝	WATANABE, Sho	福岡 凸版印刷	27 1:26:22 2017 ソウル国際	1:26:22
1010	久保 恒造	KUBO, Koze	北海道 日立ソリューションズ	37 1:24:01 2018 大分国際	1:23:24
1011	エルンスト・バンダイク	VAN DYK, Ernst Francois	RSA 南アフリカ	45 1:24:03 2018 大分国際	1:18:04
1012	洞ノ上 浩太	HOKINOUE, Kota	福岡 Yahoo!	44 1:24:04 2018 大分国際	1:20:52
1013	吉田 竜太	YOSHIDA, Ryota	東京 SUS	37 1:24:07 2018 大分国際	1:23:18
1014	ホルディ・マデラ	MADERA, Jordi	ESP スペイン	39 1:29:45 2018 ベルリン	1:22:10
1015	河室 隆一	KAWAMURO, Ryuichi	大分 ホンダアスリート	45 1:29:58 2018 ベルリン	1:29:58
1016	副島 正純	SOEJIMA, Masazumi	長崎 ソシオSOEJIMA	48 1:30:13 2018 大分国際	1:18:50
1017	吉田 高志	YOSHIDA, Takashi	大阪 奥アンツーカ	40 1:30:24 2018 ソウル国際	1:30:24
1018	ジョシュ・キャシディ	CASSIDY, Josh	CAN カナダ	34 1:31:19 2018 ソウル国際	1:18:25
1019	アレクサンドレ・デュボン	DUPONT, Alexandre	CAN カナダ	34 1:31:27 2017 シカゴ	1:31:27
1020	樋口 政幸	HIGUCHI, Masayuki	千葉 ブーマジャパン	40 1:31:36 2018 東京	1:22:02
1021	廣道 純	HIROMICHI, Jun	大分 ブーマジャパン	45 1:31:54 2018 東京	1:23:20
1022	レオナルド・デメロ	DE MELO, Leonard	BRA ブラジル	23 1:32:32 2018 大分国際	1:32:32
1023	安岡 チョーク	YASUOKA, Choke	東京 リーフラス	46 1:38:05 2018 大分国際	1:22:17
1024	佐藤 健	SATO, Ken	埼玉 コロンビアスポーツウエア	35 1:41:57 2018 大分国際	1:41:57
1025	武村 浩生	TAKEMURA, Koki	福岡 Yahoo!	31 1:42:58 2018 東京	1:42:58
1026	西原 宏明	NISHIHARA, Hiroaki	京都 ファイテン	38 1:46:40 2018 大分国際	1:46:40

車いすエリート選手(女子)リスト ELITE WHEELCHAIR ATHLETES (WOMEN)

No.	氏名 Name	国籍・所属 Nationality・Club	年齢 Age	出場資格記録 Qualified Time	自己記録 Personal Best Time
1101	マヌエラ・シャー	SCHAR, Manuela	SUI スイス	34 1:36:53 2018 ベルリン	1:28:17
1102	タチアナ・マクファーデン	MCFADDEN, Tatyana	USA アメリカ	29 1:39:15 2017 シカゴ	1:35:05
1103	アマンダ・マグロリー	MCGRORY, Amanda	USA アメリカ	32 1:39:15 2017 シカゴ	1:33:13
1104	マディソン・デロザリオ	DE ROZARIO, Madison	AUS オーストラリア	25 1:39:22 2017 シカゴ	1:39:22
1105	スザンナ・スカロニ	SCARONI, Susannah	USA アメリカ	27 1:41:44 2018 ベルリン	1:33:17
1106	マルフリート・ファンデンブルーク	VAN DEN BROEK, Margriet	NED オランダ	44 1:44:06 2018 大分国際	1:38:33
1107	喜納 翼	KINA, Tsubasa	沖縄 タイヤランド沖縄	28 1:39:36 2018 大分国際	1:39:36
1108	中山 和美	NAKAYAMA, Kazumi	神奈川 アクセンチュア	35 1:46:14 2017 東京	1:46:14

車いすエリート選手(男子)出場選手数

TOTAL NUMBER OF ELITE WHEELCHAIR ATHLETES (MEN)

車いすエリート男子 Total Number of Elite Wheelchair Athletes	26 名
うち海外招待選手 International Invited Wheelchair Athletes	5 名
うち国内招待選手 Japanese Invited Athletes	4 名

車いすエリート選手(女子)出場選手数

TOTAL NUMBER OF ELITE WHEELCHAIR ATHLETES (WOMEN)

車いすエリート女子 Total Number of Elite Wheelchair Athletes	8 名
うち海外招待選手 International Invited Wheelchair Athletes	6 名
うち国内招待選手 Japanese Invited Athletes	2 名